

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
250	2009/4/23	90119	化学及血清療法研究所	フィブリノゲン加第XIII因子	人フィブリノゲン	ヒト血液	日本	有効成分	有	無	無	ウイルス感染	Proc Natl Acad Sci USA 2008; 105: 14124-14129	80995に同じ
												ウイルス感染	ProMED-mail20081028.3409	80995に同じ
												細菌感染	CDC/MMWR 2008; 57: 1145-1148	80995に同じ
												ウイルス感染	ProMED-mail20090129.0400	90003に同じ
												レトロウイルス	CDC/Travelers' Health 2009年2月4日	90003に同じ
												コレラ	CDC/Travelers' Health 2009年2月4日②	90003に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	HPA/News 2009年2月17日	90068に同じ
251	2009/4/23	90120	化学及血清療法研究所	フィブリノゲン加第XIII因子	人血液凝固代XIII因子	ヒト血液	日本	有効成分	有	無	無	ウイルス感染	Proc Natl Acad Sci USA 2008; 105: 14124-14129	80995に同じ
												ウイルス感染	ProMED-mail20081028.3409	80995に同じ
												細菌感染	CDC/MMWR 2008; 57: 1145-1148	80995に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	ProMED-mail20090129-0400	90003に同じ
												レトロウイルス	CDC/Travelers' Health 2009年2月4日	90003に同じ
												コレラ	CDC/Travelers' Health 2009年2月4日②	90003に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	HPA/News 2009年2月17日	90068に同じ
252	2009/4/23	90121	化学及血清療法研究所	トロンビン フィブリノゲン加第Ⅷ因子 乾燥濃縮人活性化プロテインC	トロンビン	ヒト血液	日本	有効成分 製造工程	有	無	無	ウイルス感染	Proc Natl Acad Sci USA 2008; 105: 14124-14129	80995に同じ
												ウイルス感染	ProMED-mail20081028.3409	80995に同じ
												細菌感染	CDC/MMWR 2008; 57: 1145-1148	80995に同じ
												ウイルス感染	ProMED-mail20090129.0400	90003に同じ
												レトロウイルス	CDC/Travelers' Health 2009年2月4日	90003に同じ
												コレラ	CDC/Travelers' Health 2009年2月4日②	90003に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	HPA/News 2009年2月17日	90068に同じ
253	2009/4/23	90122	化学及血清療法研究所	フィブリノゲン加第ⅩⅢ因子 乾燥濃縮人活性化プロテインC 乾燥濃縮人血液凝固第Ⅸ因子 乾燥スルホ化人免疫グロブリン 人血清アルブミン 乾燥濃縮人血液凝固第Ⅷ因子	人血清アルブミン	ヒト血液	日本	有効成分 添加物	有	有	無	ウイルス感染	Proc Natl Acad Sci USA 2008; 105: 14124- 14129	80995に同じ
												ウイルス感染	ProMED- mail2008102 8.3409	80995に同じ
												細菌感染	CDC/MMWR 2008; 57: 1145-1148	80995に同じ
												ウイルス感染	ProMED- mail2009012 9.0400	90003に同じ
												レトロウイルス	CDC/Travele rs' Health 2009年2月4 日	90003に同じ
												コレラ	CDC/Travele rs' Health 2009年2月4 日②	90003に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	HPA/News 2009年2月17 日	90068に同じ
254	2009/4/23	90123	化学及血清療法研究所	乾燥濃縮人活性化プロテインC	プロテインC	ヒト血液	日本	有効成分	有	無	無	ウイルス感染	ProMED- mail2008102 8.3409	80995に同じ
												細菌感染	CDC/MMWR 2008; 57: 1145-1148	80995に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	ProMED-mail20090129-0400	90003に同じ
												レトロウイルス	CDC/Travellers' Health 2009年2月4日	90003に同じ
												コレラ	CDC/Travellers' Health 2009年2月4日②	90003に同じ
												異型クローンフェルト・ヤコブ病	HPA/News 2009年2月17日	90068に同じ
												マラリア	CDC/MMWR 2009; 58: 229-2	近年、5番目のマラリア原虫として、サルマラリアであるPlasmodium knowlesiのヒトへの感染例がマレーシア及びその周辺において多数確認されており、人畜共通感染症の病原体として新興している可能性が示されている。
255	2009/4/23	90124	化学及血清療法研究所	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降精製百日せきワクチン	アポセルロブラスミン	ヒト血液	日本	製造工程	有	無	無	ウイルス感染	Proc Natl Acad Sci USA 2008; 105: 14124-14129	80995に同じ
												ウイルス感染	ProMED-mail20081028.3409	80995に同じ
												細菌感染	CDC/MMWR 2008; 57: 1145-1148	80995に同じ
												ウイルス感染	ProMED-mail20090129.0400	90003に同じ
												レトロウイルス	CDC/Travellers' Health 2009年2月4日	90003に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												コレラ	CDC/Travelers' Health 2009年2月4日②	90003に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	HPA/News 2009年2月17日	90068に同じ
												マラリア	CDC/MMWR 2009; 58: 229-2	90123に同じ
256	2009/4/23	90125	化学及血清療法研究所	乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン	デオキシリボヌクレアーゼI	ウシ臍臓	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
257	2009/4/23	90126	化学及血清療法研究所	乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン 乾燥ポツリヌスウマ抗毒素	リボヌクレアーゼA	ウシ臍臓	ニュージーランド、オーストラリア	製造工程	無	無	無			
258	2009/4/23	90127	デンカ生研	乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン	ウシ血清	ウシ血液	製造中止により記載なし	製造工程	有	無	無	大腸菌性胃腸炎	日本公衆衛生雑誌 第67回日本公衆衛生学会総会 13-019	90020に同じ
259	2009/4/23	90128	デンカ生研	乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン	ウシ胎児血清	ウシ胎児の血清	製造中止により記載なし	製造工程	有	無	無	大腸菌性胃腸炎	日本公衆衛生雑誌 第67回日本公衆衛生学会総会 13-019	90020に同じ
260	2009/4/23	90129	デンカ生研	乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン	DNase I	ウシの臍臓	製造中止により記載なし	製造工程	有	無	無	大腸菌性胃腸炎	日本公衆衛生雑誌 第67回日本公衆衛生学会総会 13-019	90020に同じ
261	2009/4/23	90130	デンカ生研	乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン	RNase A	ウシの臍臓	製造中止により記載なし	製造工程	有	無	無	大腸菌性胃腸炎	日本公衆衛生雑誌 第67回日本公衆衛生学会総会 13-019	90020に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
262	2009/4/23	90131	デンカ生研	乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン	トリブシン	ブタの膵臓	製造中止により記載なし	製造工程	有	無	無	日本脳炎	第40回日本小児感染症学会総会・学術集会 F-13	90028に同じ
												エボラ出血	OIE press release 23Dec2008	80963に同じ
												インフルエンザ	日本ウイルス学会第56回学術集会	90028に同じ
												鳥インフルエンザ	2E05 日本ウイルス学会第56回学術集会 3F03	90028に同じ
												エボラ出血	WHO/WER 2009; 84: 49-56	90001に同じ
263	2009/4/23	90132	デンカ生研	乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン	GL37細胞	アフリカミドリザルの腎細胞由来	製造中止により記載なし	製造工程	有	無	無	原虫感染	日本寄生虫学会第64回西日本支部大会 32	昨年、新種のアメーバが分離され、Entamoeba nuttalliとして報告された。本原虫は動物実験で病原性を示し、Entamoeba spp.にE. histolytica以外の病原種の存在を示唆する知見である。インインドネシアのカニクイザルの感染状況を調査した結果、糞便52検体中1検体で検出された。
264	2009/4/23	90133	塩野義製薬	テセロイキン(遺伝子組換え)インターフェロン ガンマ-1a(遺伝子組換え)	人血清アルブミン	ヒト血液	アメリカ	添加物	有	無	無	ウイルス感染	WHO/EPR 2008年10月13日	81005に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	HPA/Health Protection Report 3(7) 2009年2月20日	1996年に血漿を提供し、その6ヵ月後にvCJDを呈したドナーの血漿由来の第8因子製剤を使用した血友病患者について、この度、検死によりvCJD感染が報告された。血漿分画製剤によるTSE伝播の可能性を示唆する初の報告である。
265	2009/4/23	90134	塩野義製薬	テセロイキン(遺伝子組換え)インターフェロン ガンマ-1a(遺伝子組換え)	カザミノ酸	ウシ乳	オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
266	2009/4/23	90135	塩野義製薬	テセロイキン(遺伝子組換え)インターフェロン ガンマ-1a(遺伝子組換え)	バクトトリプトン	ウシ乳	オーストラリア、ニュージーランド、アメリカ	製造工程	無	無	無			
267	2009/4/23	90136	塩野義製薬	テセロイキン(遺伝子組換え)インターフェロン ガンマ-1a(遺伝子組換え)	パングレアチン	ブタ膵臓抽出物	アメリカ、カナダ	製造工程	無	無	無			
268	2009/4/23	90137	わかもと製薬	ウロキナーゼ	ウロキナーゼ	人尿	中国	有効成分	有	無	無	ウイルス感染	ProMED-mail20080911.2845	げっ歯類を宿主とし、これまでにヒトには感染しないと考えられていたcardiovirusがヒト糞便検体から検出されている。ヒト感染例が確認された3文献をまとめている。
												レプトスピラ症	ProMED-mail20080922.2984	スリランカにて2008年8月末までに報告されたレプトスピラ症は3,825例であり、死亡例は117例であった。9月20日までに症例数は4,500例、死亡例は150例に増加した。
												ベスト	ProMED-mail20081001.3094	中国林芝地区の朗県において肺ベストに感染した2例が死亡した。症例は35歳男性と38歳の妻。
												細菌性胃腸炎	ProMED-mail20081229.4095	中国、Hubeiの学校で生徒81人が感染した腸チフスのアウトブレイクは制御されたと地元当局が2008年12月26日に発表。
												髄膜炎菌感染	ProMED-mail20090211.0621	髄膜炎菌性髄膜炎が流行・拡大しているバングラディッシュに国境を接しているインド北東部において2,000例を超える髄膜炎菌性髄膜炎が発生し、165例以上が死亡している。
269	2009/4/23	90138	わかもと製薬	ウロキナーゼ	人血清アルブミン	人血液	日本	添加物	有	有	無	狂犬病	ProMED-mail20080826.2660	81013に同じ
												デング熱	ProMED-mail20080909.2821	フィリピン保健当局は、2008年1月から8月2日までにデング熱による死亡195例、症例19,658例が記録されたと9月1日に述べた。
												チクングニヤウイルス感染	ProMED-mail20080923.3010	インドにおいてチクングニヤ症例が増加しており、2008年は現在までに70,740例(2007年:59,536例)に達している。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												デング熱	ProMED-mail20080929.3078	インドにおいてデング熱の発生率は減少しており、2007年の症例数5,634例、死亡数69例に対し、2008年は現在までに症例数2,808例、死亡数38例である。
												チクングニヤウイルス感染	ProMED-mail20081014.3259	インドネシアのKepulauan RiauのPangkelにおいて村民5,200例はチクングニヤに感染し、またRiau ProvinceのHealth Serviceは、2008年10月13日時点で約300例がチクングニヤの影響を受けたと述べている。
												デング熱	N Engl J Med 359(14):1526-1527 Oct.2, 2008	90100に同じ
												鳥インフルエンザ	Wkly Epidemiol Rec 2008; 83: 357-364	2007年10-11月にパキスタンで発生したトリインフルエンザA(H5N1)の家族クラスターでは、25~32歳の兄弟3例が確定症例で、内1例が死亡し、2例は回復した。更に、同一家族内で感染可能性例1例、および無症候性の血清反応陽性例1例が検出された。1例目の症例のみが感染した家禽への接触歴があった。家族内での限定的なヒト-ヒト感染が発生したが、コミュニティへは拡大しなかった。
												コンゴ・クリミア出血熱	ProMED-mail20081027.3392	パキスタンのChest病院にクリミア・コンゴ出血熱症例3例が入院した。なお、最近2ヶ月間にクリミア・コンゴ出血熱症例数十例が入院し3例が死亡している。当該地区における過去2年間のクリミア・コンゴ出血熱感染症例は約100例である。
												マラリア	ProMED-mail20081111.3553	インドのベンガル州保健当局によると、2008年8月29日までの報告では、25,109例がベクター媒介疾患に罹患し、そのうち1,476例が熱帯熱マラリアであったが、その後発表された正確なデータでは、41,223例がベクター媒介疾患に罹患し、そのうち4,781例が熱帯熱マラリアであった。
												HIV	Nature 2008; 455: 609-611	2007年10月、中国におけるHIV感染者は70万人を記録。以前は感染有病率は0.04~0.07%と低推移を示していたが、2006年以降は8%と増加し、雲南、新疆は4~6万人、広西、広東は3~4万人を記録している。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												マラリア	ProMED-mail20081114.3591	シンガポール、フィリピン、マレーシア、タイでのPlasmodium knowlesi原虫感染によるヒトマラリア感染に関する論文が紹介されている。
												日本脳炎	ProMED-mail20081115.3609	インド当局はBRD Med. Coll. Hosp及び隣接する地区の病院において最近24時間のうちに小児4例が脳炎により死亡し、死亡例の合計は447例になったと述べた。2008年11月14日、脳炎の新規疑い例が14例入院し、122例が脳炎疑いで加療されており、2008年11月以降、脳炎症例が2,426例記録されている。(ただし、日本脳炎の確定診断はなされていない)
												細菌感染	ProMED-mail20081120.3661	90017に同じ
												ウイルス感染	IASR 2008; 29: 310-312	81005に同じ
												B型肝炎C型肝炎	ProMED-mail20081201.3773	パキスタンSindh地方、BadinにおいてB型及びC型肝炎が増加している。Badin及びその周辺の村では45%が罹患している。理由は、基本的な医療設備の不足、シリンジ使い回し、肝炎ウイルス検査無しの輸血と述べられている。
												デング熱	ProMED-mail20081207.3840	パキスタン、ラホールにおいて最近24時間にさらに17例がデング熱の診断を受けたと保健当局が述べた。ラホールにおけるアウトブレイクは継続しており、11月26日付The Timesによるとこれまでに1,149例が報告され、Punjab州で報告された合計は1,219例である。
												チクングニヤウイルス感染	ProMED-mail20081224.4028	マレーシア保健当局は、2008年マレーシア全域においてチクングニヤ疑い例が4,000例に上ったと12月17日に述べた。
												デング熱	ProMED-mail20090105.0041	インドネシア、東カリマンタンでは、2008年1~11月にデング熱で101例が死亡し、この死亡率(172/10万人・月)は国内平均(20/10万人・月)の8倍である。カンボジアでは、2008年のデング熱罹患患者数及び死亡者数は大幅に減少し、2008年の現在までの死亡例は65例(2007年: 407例)、罹患患者数は9,300例(2007年: 39,851例)である。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												HIV	Lancet 2008; 372: 1791-1793	2007年、中国におけるHIV感染者70万人、AIDS発症者8万5千人と推定。
												チクングニヤウィルス感染	ProMED-mail2009011 2.0125	2008年末のチクングニヤのアウトブレイク以降、moneragala地方から報告された患者数は1300例。スリランカ保健当局によると、アウトブレイク発生直後の数日間に300~400例/日の患者が発生し、流行地域で約3000例の患者が確認された。
												チクングニヤウィルス感染	ProMED-mail2009011 4.0150	モルディブLaamu Atoliの島々においてチクングニヤやデング熱のアウトブレイクが2008年12月頃から発生し、1,000人以上が罹患している。
												結核	ProMED-mail2009011 4.0151	81016に同じ
												デング熱	ProMED-mail2009011 9.0242	台湾において2008年1月1日~2009年1月6日の間に報告されたデング熱症例は1,419例であり、そのうち488例は検査で陽性であった。
												エボラ出血	WHO (2009年2月3日)	90019に同じ
												デング熱	ProMED-mail2009020 4.0487	シンガポール環境庁は、同国において2009年1月最初の3週間でデング熱感染症例509例が登録され、2008年同時期の症例数341例を超えていると報告。
												デング熱	ProMED-mail2009021 0.0603	マレーシアにおいて2009年の最初の5週間で国内のデング熱症例が倍増した。Selangorでは未だに症例数は多く、2009年2月6日時点で約6,623症例及び死亡18例が登録されている。
												デング熱	ProMED-mail2009021 6.0650	ベトナムでは2009年の現在までのデング熱症例は約3,000例と、前年同時期と比較して20.5%増加している。一方、タイでは2009年の現在までのデング熱症例は1,675例(死亡2例)であり、前年同時期(1,553例、死亡2例)に比べ若干増加している。
270	2009/4/24	90139	日本赤十字社	乾燥濃縮人血液凝固第Ⅷ因子	乾燥濃縮人血液凝固第Ⅷ因子	人血液	日本	有効成分	有	無	無	ウエストナイルウイルス	ABC Newsletter No.38 2008年10月17日	81068に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												HHV-8感染	Transfusion 2008; 48: Supplement 105A	81068に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコブ 病	2008年プリオ ン研究会 2008年8月 29-30日	81068に同じ
												クロイツフェル ト・ヤコブ病	J Neurol Neurosurg Psychiatry 2008; 79: 229-231	81068に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコブ 病	Transfusion 2008; 48: Supplement 33A	81068に同じ
												クロイツフェル ト・ヤコブ病	Emerg Infect Dis 2009; 15: 265-271	孤発性CJD(sCJD)と医学的処置との関連性を 解明するために、日本における1999~2008年 の期間にCJDサーベイランス委員会に登録さ れた患者について分析した。その結果、sCJD 発症前に施行された医学的処置によりプリオン 病が感染した証拠はみつからなかった。
												異型クロイツ フェルト・ヤコブ 病	Blood, Prepublished online 2008 年7月22日	81005に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコブ 病	2008年プリオ ン研究会 2008年8月 29-30日 ポ スター11	81068に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコブ 病	2008年プリオ ン研究会 2008年8月 29-30日 ポ スター18	81068に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコブ 病	PLoS ONE 2008; 3: e3017	81013に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	HPA/News 2009年2月17日	90068に同じ
												HIV	Eurosurveillance 2008; 13(50): 19066	81068に同じ
												インフルエンザ	ProMED-mail20080825.2648	タミフル耐性型の「通常の」季節性インフルエンザが急速に拡大しており、南アフリカでは今年の冬(2008~2009年)のインフルエンザに効果がないおそれがある。WHOのデータによると同国でH1N1株に感染した107名に関する検査の結果、全員がタミフルに耐性の突然変異株を保有していた。2008年4月1日から8月20日に南半球の12カ国のH1N1インフルエンザ感染患者由来検体788例中242例(31%)がタミフル耐性に関係があるH274Y突然変異を有していた。
												ウイルス感染	BuaNews online 2008年10月13日	南アフリカ、ヨハネスブルグで3名の死者を出したウイルスは、暫定的に西アフリカのラッサウイルスに近い、齧歯類媒介性アレナウイルスであると特定された。国立感染症研究所と保健省は共同で、このウイルスが体液を介してヒトからヒトに感染するため、「患者の看護に特別な予防的措置が必要である」との声明を発表した。3名の死因を確定するには更なる検査が必要である。
												ウイルス感染	ProMED-mail20090218.0669	ナイジェリアでは、2008年1月から12月にかけて、229人のラッサ熱感染疑い患者が報告され、30人が死亡している。また、2008年12月~2009年1月に、感染疑い患者及び感染確定患者はそれぞれ60%及び80%増加している。
												A型肝炎	Vox Sanguinis 2009; 96: 14-19	加熱及び高静水圧の物理的不活化処理法で4株のA型肝炎ウイルスの不活化を行ったところ、それぞれの処理はHAV感染性を3~5log10の範囲で低下させた。また、血液製剤のウイルス汚染に対する安全性を評価するのにもっとも適した株は、耐熱性のKRM238であった。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												B型肝炎	J Med Virol 2008; 80: 1880-1884	1971~2005年の35年間に虎ノ門病院に来院した急性HBV感染患者153名および慢性HBV感染患者4277名について5年間毎のHBVジェノタイプ/サブジェノタイプを調べた。急性感染患者数は35年間で増加し続けた。慢性感染患者は1986~1990年が最大であった。ジェノタイプは急性感染患者と慢性感染患者で大きく異なった(A、B、C型: 28.6%、10.3%、59.5% vs 3.0%、12.3%、84.5%)。最近では外国のサブジェノタイプB2/Baが増加する傾向がある。
												B型肝炎	Vox Sanguinis 2008; 95: 174-180	HBV DNA陽性かつ表面抗原(HBsAg)陰性オカルトHBV感染の検出感度を上げるために、HBV DNAとHBsAgを同時に濃縮する新規方法を開発した。二価金属存在下でpoly-L-lysineでコートした磁気ビーズを使用し、ウイルス凝集反応を増強させ、ウイルスを濃縮する方法により、HBV DNAとHBsAg量は、最高4~7倍に濃縮された。本方法により、EIAとHBV NATの感度が上昇し、HBsAg EIAを用いてオカルトHBV感染者40名のうち27名を検出することができた。
												B型肝炎	日本小児感染症学会第40回総会・学術集会 E-20	母親がHBsAg陰性かつ家族内に患者以外のHBVキャリアが存在する成人及び小児HBVキャリアである7家族を対象とし、HBV全遺伝子解析に基づく分子系統樹を用いて感染源を検索したところ、3家族で父親以外の感染源の可能性があり、祖母からの感染は分子疫学的に感染経路を証明できた。
												C型肝炎	Clin Infect Dis 2008; 47: 931-934	ニューヨーク市のEast Harlemのクリニックから18歳以上で血中HCV PCR陽性の吸引用麻薬常習者38名の鼻汁検体および吸引に使用したストローを入手し、血液およびHCV RNAの存在の有無を調べた。鼻汁検体28例(74%)、ストロー3例(8%)から血液が検出され、鼻汁検体5例(13%)、ストロー2例(5%)でHCV RNAが検出された。HCVウイルスの鼻腔内伝播のウイルス学的妥当性が示された。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												C型肝炎	第70回 日本血液学会総会 2008年10月10-12日	再生不良性貧血の54歳女性で、初回輸血前検査はHCV抗体陰性、HCVコア蛋白陰性であったが、複数回輸血後、HCVコア蛋白が陽性化したため、避及調査を開始した。保管検体の個別NATにより、1検体からHCV-RNAを検出した。患者と献血者のHCV Core-E1-E2領域の塩基配列が一致した。日本で20プールNAT導入後、初めて確認された輸血によるHCV感染症例である。
												C型肝炎	日本血液事業学会第32回総会	1999年7月～2008年3月までにNATで検出された111本のHCV-RNA陽性検体のGenotype解析の結果、Genotype 2aが最も多く、1bと2bがほぼ同数であった。
												E型肝炎	AABB Annual Meeting and TXPO 2008	2005～2007年に北海道で実施したプールNATによるHEV-RNAスクリーニングの結果、献血者の約1/8,300はHEV-RNA陽性であった。ほとんどの献血者は動物内臓を摂取しており、無症候性であったが、ウイルス血症は数ヶ月間持続した。
												E型肝炎	Transfusion 2008; 48: 2568-2576	日本全国でALT高値のため献血不適となった献血者の血液検体に、HEVマーカー(HEV-RNA及び抗HEV抗体)が認められ、いずれのマーカーとも東日本の法が西より高かった。
												E型肝炎	Clin Infect Dis 2009; 48: 373-374	急性白血病の33歳の男性がE型肝炎を発症し、HEV遺伝子検査の結果、重複する時期に同じ病棟に入院していた別のE型肝炎患者から感染していたことが示唆された。
271	2009/4/24	90140	日本赤十字社	乾燥濃縮人血液凝固第Ⅷ因子	人血清アルブミン	人血清	日本	添加物	有	無	有	ウエストナイルウイルス	ABC Newsletter No.38 2008年10月17日	81068に同じ
												HHV-8感染	Transfusion 2008; 48: Supplement 105A	81068に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	2008年プリオン研究会 2008年8月29-30日	81068に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												クロイツフェルト・ヤコブ病	J Neurol Neurosurg Psychiatry 2008; 79: 229-231	81068に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Transfusion 2008; 48: Supplement 33A	81068に同じ
												クロイツフェルト・ヤコブ病	Emerg Infect Dis 2009; 15: 265-271	90139に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Blood, Prepublished online 2008年7月22日	81005に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	2008年プリオン研究会 2008年8月29-30日 ポスター11	81068に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	2008年プリオン研究会 2008年8月29-30日 ポスター18	81068に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	PLoS ONE 2008; 3: e3017	81013に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	HPA/News 2009年2月17日	90068に同じ
												HIV	Eurosurveillance 2008; 13(50): 19066	81068に同じ
												インフルエンザ	ProMED-mail20080825.2648	90139に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	BuaNews online 2008 年10月13日	90139に同じ
												ウイルス感染	ProMED- mail2009021 8.0669	90139に同じ
												A型肝炎	Vox Sanguinis 2009; 96: 14- 19	90139に同じ
												B型肝炎	J Med Virol 2008; 80: 1880-1884	90139に同じ
												B型肝炎	Vox Sanguinis 2008; 95: 174-180	90139に同じ
												B型肝炎	日本小児感 染症学会第 40回総会・学 術集会 E- 20	90139に同じ
												C型肝炎	Clin Infect Dis 2008; 47: 931-934	90139に同じ
												C型肝炎	第70回 日本 血液学会総 会 2008年 10月10-12日	90139に同じ
												C型肝炎	日本血液事 業学会第32 回総会	90139に同じ
												E型肝炎	AABB Annual Meeting and TXPO 2008	90139に同じ
												E型肝炎	Transfusion 2008; 48: 2568-2576	90139に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												E型肝炎	Clin Infect Dis 2009; 48: 373-374	90139に同じ
272	2009/4/24	90141	ベネシス	乾燥抗HBs人免疫グロブリン ポリエチレングリコール処理抗 HBs人免疫グロブリン	抗HBs抗体	人血液	米国	有効成分	有	無	無	異型クロイツ フェルト・ヤコブ 病	American Society of Hematology/ Press Releases 2008年8月28日	81013に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコブ 病	Cell 2008; 134: 757-768	810113に同じ
												ウイルス感染	Proc Natl Acad Sci USA 2008; 105: 14124-14129	80995に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコブ 病	PLoS ONE 2008; 3: e3017	81013に同じ
												ウイルス感染	WHO/EPR 2008年10月13日	81005に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコブ 病	Lancet Neurology 2009; 8: 57-66	BSEプリオンに対するヒトの感受性について SNPを解析した。PRNP遺伝子座はプリオン病のいくつかのマーカールと全てのカテゴリーを通じてリスクに強く関連していた。疾病リスクへの主な寄与はPRNP多型コドン129であったが、別の近傍のSNPIによってvCJDのリスク増大がもたらされた。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												コクシジオイデス症	CDC/MMWR 2009; 58: 105-109	カリフォルニア州におけるコクシジオイデス症の報告数及び入院数は2000~2006年の間毎年増加しており、1995~2000年の3倍以上(8/10万人)となった。米国のコクシジオイデス症全体の約60%を占めるアリゾナ州でも同様に、2006年には5,535例(91/10万人)と増加している。米国全体でも、1996年の1,697例から2006年には8,917例(6.97/10万人)に増加しており、流行地への訪問や居住歴のあるインフルエンザ様症状や肺炎、播種性感染症の患者では本症が鑑別されるべきである。
273	2009/4/24	90142	ベネシス	乾燥濃縮人血液凝固第IX因子	マウスモノクローナル抗体	マウス脾臓細胞と骨髓腫細胞のハイブリ	イギリス	製造工程	無	無	無			
274	2009/4/24	90143	ベネシス	乾燥濃縮人血液凝固第IX因子	ウサギIgG	ウサギ血液	日本	製造工程	無	無	無			
275	2009/4/24	90144	日本メジフィックス	放射性医薬品基準人血清アルブミン五酢酸テクネチウム( <sup>99m</sup> Tc)注射液	人血清アルブミンジェチレントリアミン五酢酸テクネチウム( <sup>99m</sup> Tc)	生物学的製剤基準人血清アルブミン	日本	有効成分	無	無	無			
276	2009/4/27	90145	バイエル薬品	イットリウム( <sup>90</sup> Y)イブリツモマブチウキセタン(遺伝子組換え)注射液調整用 インジウム( <sup>111</sup> In)イブリツモマブチウキセタン(遺伝子組換え)注射液調整用	ウシ乳加水分解物	ウシ乳	オーストラリア又はニュージーランド	製造工程	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J. Hosp. Infect. 2009; 72: 65-70	新規のプリオン不活化法として、Bacillus lentus サブチリシン遺伝子を変異させて得られたアルカリプロテアーゼ: MC3の報告。MC3はプロテイナーゼKよりも高い分解能を示し、MC3消化の感染性マウス脳ホモジネート(iMBH)投与マウスの生存率は、非分解iMBH投与マウスと比較して極めて高かった。
277	2009/4/27	90146	バイエル薬品	インターフェロンベータ-1b(遺伝子組換え) イットリウム( <sup>90</sup> Y)イブリツモマブチウキセタン インジウム( <sup>111</sup> In)イブリツモマブチウキセタン	人血清アルブミン	ヒト血液	米国	添加物	有	無	無	ウイルス感染	PNAS 2008; 105: 14124-14129	新規ヒトカルジオウイルス7株についての報告。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	News-Medical.Net 2008 Dec 22	Amorfix Life Sciences社(カナダ)が開発した血漿中におけるvCJDプリオンタンパク質の検査法。脳ホモジネートを1/1,000,000まで希釈した検体を検出することに成功した。
												エボラ出血	WHO (2009年2月3日)	90019に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	HPS Weekly Report 2009; 43: 78	90183に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J. Hosp. Infect. 2009; 72: 65-70	90145に同じ
278	2009/4/27	90147	バイエル薬品	オクトコグ アルファ(遺伝子組換え)	加熱人血漿たん白	ヒト血液	米国	製造工程	有	無	無	ウイルス感染	PNAS 2008; 105: 14124-14129	90146に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	News-Medical.Net 2008 Dec 22	90146に同じ
												エボラ出血	WHO (2009年2月3日)	90019に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	HPS Weekly Report 2009; 43: 78	90183に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J. Hosp. Infect. 2009; 72: 65-70	90145に同じ
279	2009/4/27	90148	バイエル薬品	オクトコグ アルファ(遺伝子組換え)	人血清アルブミン	ヒト血液	米国	製造工程	有	無	無	ウイルス感染	PNAS 2008; 105: 14124-14129	90146に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	News-Medical.Net 2008 Dec 22	90146に同じ
												エボラ出血	WHO (2009年2月3日)	90019に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	HPS Weekly Report 2009; 43: 78	90183に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J. Hosp. Infect. 2009; 72: 65-70	90145に同じ
280	2009/4/27	90149	バイエル薬品	オクトコグ アルファ(遺伝子組換え)	ウシインスリン	ウシ臓腑	米国	製造工程	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J. Hosp. Infect. 2009; 72: 65-70	90145に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
281	2009/4/27	90150	バイエル薬品	オクトコグ アルファ(遺伝子組換え)	ヒトトランスフェリン	ヒト血液	米国	製造工程	有	無	無	ウイルス感染	PNAS 2008; 105: 14124-14129	90146に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	News-Medical.Net 2008 Dec 22	90146に同じ
												エボラ出血	WHO (2009年2月3日)	90019に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	HPS Weekly Report 2009; 43: 78	90183に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J. Hosp. Infect. 2009; 72: 65-70	90145に同じ
282	2009/4/27	90151	日本製薬	乾燥抗破傷風人免疫グロブリン	破傷風抗毒素	人血液	米国	有効成分	有	無	無	B型肝炎	J Hepatol 2008; 48: 1022-1025	81039に同じ
												E型肝炎	Transfusion 2008; 48: 1368-1375	81038に同じ
												B型肝炎	Transfusion 2008; 48: 1602-1608	81038に同じ
												バルボウイルス	Lab Hematol 2007; 13: 34-38	81038に同じ
												E型肝炎	Vox Sanguinis 2008; 95: 94-100	81038に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	HPAweb February 17, 2009 February 17, 2009	90183に同じ
												B型肝炎	Transfusion Med. 2008; 18: 379-381	日本における、不顕性HBV感染者(HBsAg陰性)からの輸血によるB型肝炎感染に関する報告。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
283	2009/4/27	90152	日本製薬	乾燥抗HBs人免疫グロブリン	抗HBs抗体	人血液	米国	有効成分	有	無	無	B型肝炎	J Hepatol 2008; 48: 1022-1025	81039に同じ
												E型肝炎	Transfusion 2008; 48: 1368-1375	81038に同じ
												B型肝炎	Transfusion 2008; 48: 1602-1608	81038に同じ
												バルボウイルス	Lab Hematol 2007; 13: 34- 38	81038に同じ
												E型肝炎	Vox Sanguinis 2008; 95: 94- 100	81038に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコブ 病	HPAweb February 17, 2009 February 17, 2009	90183に同じ
												B型肝炎	Transfusion Med. 2008; 18: 379-381	90151に同じ
284	2009/4/27	90153	エーザイ	モンテブラーゼ(遺伝子組換え)	抗不純蛋白質抗体	ウサギ血清	日本	添加物 製造工程	無	無	無			
285	2009/4/27	90154	エーザイ	モンテブラーゼ(遺伝子組換え)	ウシ胎児血清	ウシ胎児血清	オーストラ リア、 ニュージー ランド、コスタ リカ、ニカ ラグア、エル サルバドル、 パナマ 又はウル グアイ (MCB)	製造工程	無	無	無			